

青梅市 自治会・支会活動事例集

平成27年度版



編集・発行 青梅市・青梅市自治会連合会

自治会・支会事例集の発行にあたって

青梅市内には、平成27年度現在11の支会、172の自治会があり、それぞれの地域特性にあったさまざまな活動を展開しています。

魅力ある自治会・支会活動を事例集としてまとめ、活発に取り組まれている自治会活動を広く市民の皆さんにお知らせすることとしました。

各自治会の活動内容や、地域の安心・安全のための防災活動などを掲載していますので、自治会活動の参考にご活用ください。

青梅市・青梅市自治会連合会



自治会・支会活動事例集 目次

「土砂災害対応訓練を実施して」 第1支会	1
「地域環境美化活動と防災意識向上」 勝沼2丁目自治会	2
「盛況だった新年餅つき大会」 滝ノ上自治会（第1支会）	3
「青梅市自治会連合会第二支会連合組織」 第2支会	4
「黄色旗の配布について」 第2支会	5
「駒木町連合自治会防災学習会」 駒木町連合自治会（第2支会）	6
「霞川清掃」 第3支会	7
「伝統行事を守り続けて」 谷野自治会（第3支会）	8
「盆踊りの『輪』で地域の『和』を」 梅郷1・2丁目連合自治会（第4支会）	9
「明るい思いやりのある“まちづくり”」 梅郷3・4・5丁目連合自治会（第4支会）	10
「避難所宿泊体験会の開催」 第5支会	11
「『地区の安心見守り活動』の実施」 二俣尾1丁目自治会（第5支会）	12
「消火栓取扱い訓練」 沢井2丁目自治会（第5支会）	13
「小曾木地区防災訓練」（小学校、中学校との連携による） 第6支会	14
「黒沢川清掃活動」 第6支会	15

「地域の応援とボランティア・歴史」	
第7支会	16
「年間を通しての自治会交流活動」	
東青梅1丁目自治会（第8支会）	17
「納涼盆踊り大会と稲荷神社祭礼」	
東青梅2丁目第1自治会（第8支会）	18
「体験・検証！避難ルートと非常食」	
新町末広町地区連合自治会（第9支会）	19
「いちばん賑やかな納涼盆踊り大会」	
新町末広町地区連合自治会（第9支会）	20
「自主防災訓練」	
新町1丁目自治会（第9支会）	21
「地域に根ざしたコミュニティ創り」	
新町7・8・9丁目自治会（第9支会）	22
「let's family golf！」	
河辺町8丁目自治会（第10支会）	23
「レクリエーション大会の開催」	
河辺ダイヤモンドマンション自治会（第10支会）	24
「第11支会 ふるさとまつり」	
第11支会	25
「生活安全・環境パトロール」	
藤橋第2自治会（第11支会）	26
「2年毎の防災訓練の実施について」	
今井原今井自治会（第11支会）	27

第1支会 土砂災害対応訓練を実施して

青梅市自治会連合会 第1支会支会長 伊東 茂

青梅市地域防災計画にもとづき、避難準備情報発令想定のもと、第1支会の19自治会住民が自治会館等へ自主避難を開始するという土砂災害対応訓練が6月28日に実施されました。

青梅市民センター内の青梅地区災害対策本部では、特別警戒区域内の青梅坂で土石流の発生した場合を想定し、避難経路を考えるなどの実践的な訓練ができました。その後、風水害時避難場所でもある天ヶ瀬体育館およびグラウンドに参加者565名が集合し、浸水時にドアにかかる水圧ドア体験、毎時300ミリの降雨体験、3D映像で土石流を再現する自然災害体験、おもり付きベストや視野が狭まるゴーグルを装着する高齢者疑似体験など、皆真剣に取り組みました。

最近の異常気象による各地の天候などを考えますと、どれだけ多くの訓練体験をするかが大変重要であります。地域ぐるみで災害に備えるため、多くの方に各地域の防災訓練に参加していただきたいと思います。



DVD、広報コーナー



各町からの訓練参加報告



各町からの訓練参加報告



高齢者疑似体験

地域環境美化活動と防災意識向上

自治会長 中村 浩三 世帯数 266 世帯（加入率約72%）

春には”ホーホケキョ”の鳴き声で目を覚まし柿沢川（霞川上流）を中心に、奥に”風の子太陽の子広場・青梅鉄道公園・永山グランド”を拝し青梅丘陵ハイキングコースの入口と云った環境にある勝沼二丁目です。

【 地域環境美化活動 】

- 柿沢川清掃・地域全域の草刈り（自治会 環境美化委員中心にて）

毎年、青梅市“多摩川1万人清掃大会”の一環として”クリーン作戦”と称し実施しております。今年も猛暑の中早朝から子供～80歳の高齢者まで120名を超える参加にて柿沢川周辺、地域全体の環境が整備されるとともに、長年に亘る活動の結果“不法投棄”などみられなくなりました。

クリーン作戦終了後慰労と暑気払いを兼ねての“バーベキュー大会”も重ねること10回となり会員相互の懇親を深めております。



草刈りと河川清掃



子供参加のバーベキュー大会

【 防災意識向上活動 】

- 自然豊かな環境とは裏腹に当地区の大半が“土砂災害警戒地区等”に指定されており過去には河川の傾斜地に土砂崩れが発生し、加え一昨年、昨年と台風、集中豪雨で2年連続自治会館を自主避難場所として開放しました。

この様な状況から、地域住民の防災意識向上を目的とし《青梅市防災出前講座》を開催致しました。地域性を考慮した講座で改めて“自助・共助”の大切さを認識しました。多数の参加をいただき防災への関心の高さを感じ、高齢化のなか次の段階にと思っております。



青梅市防災課
4名の講師による講座

盛況だった新年餅つき大会

第一支会 滝ノ上町自治会 会長 大場 昭夫

- ① 元旦の新年会に代わるもの
- ② 多勢の参加ができるもの
- ③ 子供達が楽しめる会
- ④ 自治会脱会防止につながるもの
- ⑤ 自治会って楽しいと言われるもの

そして、自治会加入の促進PRにも繋げたいと欲張りな計画のもと準備から片づけまで各種団体を含めた多勢の方にお手伝いをいただき何十年振りの自治会主催の餅つき大会を1月15日の日曜日に開催しました。

人を集める工夫として、自治会館清掃日と資源回収日に合わせて開催をしよう、自治会未加入世帯特にマンション居住者を中心にチラシ配布によるPR活動をしよう等

餅つきは若手の会員中心に、自治会役員とその奥さんたちは甘酒作りにと、又予定外で雛子連が焼き鳥、バーベキューをしていただく等大盛況でした。

子供からお父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、グループホームの利用者さん、デイサービスの利用者さんそして自治会員以外の方等総勢85名の参加があり、また、自治会に3世帯の新規加入、滝和会(老人会)には4名の加入がある等、当初の目的は十分達成でき、地域の和=輪、絆を深めるため一定の効果もあり、来年もの声も聞かれる餅つき大会となりました。



青梅市自治会連合会第二支会連合組織

第2支会長 高橋 正

第二支会の構成

第二支会は、駒木町、上長淵、下長淵、友田町、千ヶ瀬町の5地区からなり、自治会数25、加入世帯約4,900と市内最大の組織となっております。また、この5地区においては、それぞれ3～7の自治会があり、その連合体である連合組織を形成しております。

お祭りと連合組織

連合組織の成り立ちについては、定かではありませんが、各地区のお祭りに起因していると思われます。各地区には、神社がありそれぞれ奉賛会が組織されており、春、秋に例祭が行われております。特に春の祭礼においておいては、山車、神輿の巡行があり盛大に行われており、地域住民のコミュニティが図られておりますが、この繋がりが自治会活動にも反映し現在の基盤であると考えられます。

連合役員会と自治会長会議

支会としての自治会長会議は無く、毎月5地区の連合会長による役員会が開催しております。それを受け各連合での自治会長会議を開き、役員会の報告をしています。連合組織を持っている支会によっては、連合自治会長会議と支会自治会長会議を行っている支会もありますが、第二支会においては、自治会数が多い事や自治会長の負担を軽減するために、支会全体の自治会長会議は開催しておりません。

連合組織の事業

単位自治会での活動は、幾つかりありますが、基本的には無く全て連合組織の事業と活動しております。その主な内容としては、防災訓練、資源回収、盆踊りおよびラジオ体操の会等を行っています。特にラジオ体操会については、夏休みの1週間、朝6時から実施しており老若男女の方々が多数参加しております。また、前記しました祭礼にも深く関与しており地域活動のコミュニティに寄与しております。



今では、珍しい夏休みラジオ体操の会を連合毎に開催しています。

第二支会災害時「無事旗」配布！！

阪神淡路大震災以降、災害時には地域住民等における共助による救出が、初動において大切であると言われています。その共助のひとつとして安否確認がありますが、その方法として無事である旨を周知するため、「無事旗」を軒先等に掲げ素早い安否確認が出来れば、共助もスムーズに行えるものであり、全国的にも波及しております。第二支会においても、平成26年9月以降、各連合自治会の防災訓練時等において下記の文書により説明し配布しております。

大災害発生時の安否確認

黄色旗の配布について

この度、青梅市自治会連合会第二支会では、「無事」の黄色旗を作成いたしました。

大震災や土砂災害等で家族の方々が「無事」であれば玄関先等目立つ所に掲示してください。

また避難所等に避難した時にもご利用ください。



「はた」は、いつでも取り出せるように決まった場所で保管しておいてください。

青梅市自治会連合会第二支会

この事業は、「平成26年度東京都地域の底力再生事業」対象事業です

駒木町連合自治会防災学習会



平成27年9月27日（日）に、駒木町1丁目から3丁目までの駒木町連合自治会による「地域防災学習会」を駒木町自治会館において、地域住民105人の出席をいただき開催しました。

講演会に先立ち、東京都で作成した「防災ブック」の説明を青梅消防署長淵出張所の久保所長から説明を受けました。

講演会は、「首都直下型地震の備えと地域防災力の向上」をテーマに元防災・危機管理教育講師の岩崎健次氏の講演で、日々の御近所付き合いがいかに災害時に反映することになるか、

そのための地域防災組織の充実が必要であるとの講演でした。

青梅市は、比較的災害に強い地域と言われていますが、近年の異常気象と思われる大雨、大型の



台風による風水害は、地盤の強い青梅市でも例外ではありません。その為に平素からの準備、近所付き合いは大切なことであると、より感じ、そのための地域組織も大切であると再認識したものであります。



なお、この学習会は、地域防災訓練の一環として東京都の事業である地域において防災に関する事業等を行う場合に講演会の講師等の派遣を支援する

「地域防災学習交流会」の制度を活用して行ったものであります。

『霞川清掃』

第三支会長 本橋 正浩
自治会加入世帯数 2,746 世帯

第三支会では様々な行事を行う中で、環境に関する取り組みとして「霞川清掃」を昭和61年から継続して実施しております。

大門地区（第三支会）の中心を流れる霞川は、根ヶ布の天寧寺裏の霞池を水源としており、いくつかの小川と合流し入間川となり、最後は荒川となります。

大門地区では、昔から増水で氾濫が幾度もあり、平成11年の大雨では一部の家屋が、床下浸水の被害に遭いました。このことから護岸工事が着手され、現在も計画途中の段階にあります。近隣の地区は田畑から宅地化が進み、人口増加の途中ではありますが、自然と共存していた昔の姿が失われつつあります。



自然と共存する為には、霞川の自然を守っていかうとする人達の手で、この川に生きる動植物を大事に見守り、子供達が川で遊び、魚取りや虫捕りをいつまでも続けて行ける様な自然環境を守ることが必要です。

現在、貴重な場所である霞川の水辺空間をこのまま残していけるよう、我々、大門地区の自治会員の有志が集まり、ゴミ拾いや草取りなどの清掃活動を行っています。今後も自分たちの手で、愛着のある霞川の自然を守るため、この行事を続けていくように努めていきます。



『伝統行事を守り続けて』

第三支会 谷野自治会長 本橋正浩

昔ながらの行事には、それぞれその意味がありまして、無病息災や厄除、極楽浄土への往生を願うものであったりします。

歴史を遡ること約 400 年前の江戸中期に谷野の真浄寺に納められた数珠（玉数 1,080 個で長さは約 10m）を人々が輪になって「百万遍よ」と言いながら数珠を回すという行事を、今も子供達が参加して行っています。これが終わると草鞋（わらじ）と呪符を竹に吊るし、町内 9 箇所を立てて悪い病気が入って来ないように願うことも続けて行っています。



次に、十王堂祈願祭があります。平安時代に十王信仰が各地に広まり、人が死ぬと極楽に行けるのか、地獄に落ちるのかを決めるのがこの十王の役目だったそうです。庶民の間ではこの十王をお祀りして、極楽浄土へ行かせてもらうことを願ったのです。現在は住職に読経をしてもらい、線香をあげて地域の安全や 1 年間健康でいられるようお願いしたりして最後にお礼



を頂いて終了となります。

十王堂には十体の十王像が安置されており、「蹴飛ばし地蔵」とも呼ばれています。この仏像は木彫りで 20cm から 30cm の大きさと顔も体も傷だらけです。その理由はこの像は子供達が投げたり蹴飛ばしたりして遊んでくれることを喜んでくれると言われているからです。全く顔がない像もあり、江戸中期から約 50 年前までずっと蹴られ続けた歴史を残しています。お地蔵様と元気に遊ぶ子供に健康と幸せを託した古の人達の親心が伝わってくる心豊かな風習が残されていたのです。

百万遍や十王堂それから稲荷講など谷野以外の地域でも行事としてあった筈でしょうし、まだ今も続けている自治会もあろうかと思えます。今はまだ伝統を引き継いでいますが、時代の流れでいずれかはなくなってしまうのでしょう。

盆踊いの『輪』で地域の『和』を

連合自治会長 鈴木 信生

梅郷1, 2丁目は、全世帯数が約320（自治会加入率65%）の小さな地区ですが、ここ数年は転入者も増えて以前よりも活性化しています。

そのような中で、一人でも多くの人に自治会に入会して頂くよう加入活動を進めていますが苦戦中です。

しかし、転入者の方々が少しでも早く地域に溶け込めるよう地道な自治会活動を展開しています。

その大きな役割を果たしているのが、老若男女だれでも気軽に参加することができる「盆踊り大会」です。



【女性は浴衣、男性は普段着で踊りを】

「盆踊り大会」は、地元の踊り愛好会の人たちのご協力により数十年間継続していましたが、昨年愛好会の高齢化による解散に伴い、盆踊り大会の継続に危機が生まれました。



【出店を楽しむ子供たち】

これに代わる行事も検討しましたが妙案はなく、これを継続させるための方法を検討しました。

そこで、踊り愛好会だった人たちが活動している「福寿会」（地元高齢者クラブ）に協力をお願いした結果、福寿会の皆様のご協力により今まで以上に盛りあがった盆踊りを継続させることができました。

私たちの「盆踊り大会」の特長は、毎年多くの子供たちが参加することです。

子供たちにとっては、子供会のお母さんたちや地元消防団、芸能保存会など人々によるそれぞれの出店で、食べて遊んで体も動かせるたいへん楽しみの多い行事です。

事前に数回の練習会を設け、福寿会の皆様が子供会の人たち（親子）に踊りを教えることを通じて、お互いのコミュニケーションも深まってきました。

そして大会当日は、子供たちは教わった踊りを元気よく櫓の上で披露します。

子供たちが参加することで（自治会未加入の）親たちもいっしょに参加され、少しでも多くの地域の人たちとコミュニケーションを深めることができればよいと考えています。



【老若男女が一つの輪（和）になって】

このようにお年寄りから子供たちまでだれでも一つになって楽しめる「盆踊りの輪」は、地元や周辺地域の人たちの「大きな和」になっています。

第4支会 梅郷3・4・5丁目連合自治会 「明るい思いやりのある」まちづくり

連合自治会長

伊藤武夫 会員数512世帯

【納涼盆踊り大会】



今年も7月18日（土）恒例の【納涼盆踊り大会】が、賑々しく開催されました。地域の大勢の浴衣姿の老若男女が、青梅地域の民謡曲の音色に溶け込む一体感は名状しがたく、強い絆が生まれました。今年も、模擬店も「こだわりの炭火による焼鳥」「生ビール」等お客様に好評で喜ばれました。

お踊りも佳境に入り「お楽しみ抽選会で更に盛り上がり櫓を囲む輪も二重三重となり、手ぬぐい、うちわが舞い大勢の見物客も集って地域の絆が深まる夏の夜でした。



海禅寺山門の歴史を語る

【歩こう会・歴史探訪】

春と秋に交互に開催しております。今年も春の名残が惜しまれる5月31日（日）梅郷・三田・御岳地区の歴史街道の散策を行いました。豪族三田氏の歴史を刻む「海禅寺」・鎧塚・など文化財保護審議会々長の大澤清吾様

の説明に耳を傾けました。江戸初期（18世紀中期の建物）の面影を残す、都指定有形文化財の「福島家住宅」3代目当主の説明で、当時の格式高い歴史を学び当地の文化・経済を窺わせました。緑濃い御岳溪谷の遊歩道を歩き、河原の一角で疲れを癒し食事・恒例の抽選会で意義深い「歩こう会」も自由解散となりました。



福島邸の庭園で歴史を語る

第5支会

避難所宿泊体験会の開催

第5支会は、青梅市の中でも土砂災害警戒区域が多く、260箇所が指定を受けています。幸いにもここ数十年、大きな災害は発生していませんが、近年、日本各地で起きている今まで経験した事のない様な豪雨や大型台風襲来等による、多数の土砂災害を目の当たりにし、関心も非常に高まっています。

今回、台風接近により土砂災害避難準備情報が発せられとの想定で、自主避難者の避難所宿泊体験会を開催しました。

- ・日時： 8月29日19:00～8月30日8:00
- ・場所： 沢井市民センター 多目的室
- ・狙い： <1>各家庭での非常持出品の準備、見直し
<2>避難所受入体制の確認
<3>宿泊時の課題、問題点洗い出し
- ・参加者： 合計36名（内宿泊体験者：12名）

冒頭、青梅消防署日向和田出張所 指田所長から土砂災害についての講演をしていただきました。

また、君島青梅消防署長も激励に駆けつけてくださり、土砂災害等についてお話しをしていただき、大変参考になりました。

当日、宿泊者はフローリング床にマットを敷きシュラフにもぐり込んで寝ましたが、多目的室の階下には、下水道のポンプ室があり、その騒音で中々寝付けませんでした。いつのまにか夜が明けていました。

今回、初めて避難所宿泊体験会を開催しましたが、宿泊者は自治会長のみとなり、関心はあるものの、宿泊体験はしなくてもという人が多かった様です。

最近、雨雲情報や雨量情報も簡単に入手出来る様になっていますので、これら情報も取りながら、早めの避難や地域の助け合い等、危機管理体制を高めて行きたいと思えます。

避難所入口



指田所長の講演



君島消防署長のお話



「地区の安心見守り」活動の実施

活動概要

二俣尾一丁目自治会



取り付け活動

【1. 活動目的】

当自治会では、日常から会員が連携して相互の安否を確認することで、災害時以外にも「共に支えあいながら、いつまでも安心して住み続けることのできる地区」を目指す。

【2. 活動内容】

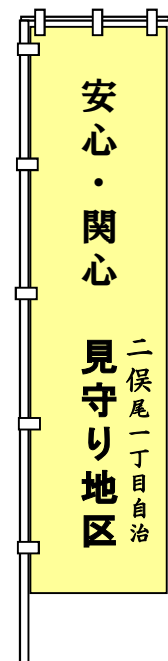
地区住民が気付きやすいような目印となる「のぼり旗」を設置する。また、希望する全世帯に「安心フラッグ」を取り付け、無事であることの意味表示として毎朝掲示し、夕方には収納と1年を通じてこの行為を繰り返す。



取り付け活動



安心フラッグ



【3. 活動予算】

・東京都「平成26年度地域の底力再生事業助成金」を活用。

・東京都助成金には上限がある為、差額については自治会費から支出。



見守り活動中

【4. 苦労点】

- (1) 安否確認には緊急連絡先情報が必要のため、全世帯を対象に個別訪問し、説明しながら理解を得るのに長期間を有した。
- (2) 不慣れなため、東京都の申請書類や完了報告書類の作成に苦労した。
- (3) 不在の世帯が多く、フラッグの取り付けには繰り返し訪問により完了までに時間を要した。
- (4) 安心フラッグ設置により在宅状況が一目で分かるようになった為、防犯上の観点から地域外どこまでの周知が必要か悩んだ。

【5. 効果】

- (1) 通勤の行き帰りにはフラッグの設置状況を確認し、複数回安否確認のため個別訪問を実施した。
- (2) フラッグの設置確認以外にも、雨戸の開閉状況や、夜間の灯火状況にも関心を持つようになった。
- (3) 会員同士が互いの在宅状況に関心を持つようになり、**防犯上の効果**にも期待が持てる。

「消火栓取扱い訓練」

地域に住んでいても「知らなかった事」ってありませんか。

何処に消火栓があるか、防火収納箱の中にどのような器具が収納されているか？体験してみようと、地元消防団のご指導をいただき「消火栓取扱い訓練」を実施しました。

まず始めに、防火収納箱には活栓棒、筒先、十字（消火栓開ける）、ホース（65mmと50mmがある）が収められています。これらの工具を実際に使い訓練しました。

日 時 平成27年4月12日(日) 午前10時15分～12時
場 所 三田保育園前道路
参加者 大人38名、子供10名、消防団7名 計55名

「消火栓取扱い実施手順」

- ①消火栓蓋を開きホースを垂直に消火栓受け口に接続-----グループ毎の体験
- ②ホースを延長する為の接続方法（今回は延長ホース1本接続）-----グループ毎の体験
- ③先端ホースに筒先を接続-----グループ毎の体験
- ④最後はグループ毎に3人1組で放水体験



【訓練を終えて】

”いざ”と、いうとき身近に在住している住民の力、知っておいて役に立つ教訓。日頃気にならなかった防火収納箱の存在、初めての試みに参加された多くの方が体験できた事を感謝しておりました。

以後隔年ごとに、消防団の協力を得て、忘れないうちにまた訓練を継続的に実施する事になりました。

第 6 支 会

小曾木地区防災訓練 (小学校、中学校との連携による)

平成27年8月30日(日) 午前8時45分～
市立第七小学校校庭および体育館

平成7年1月に発生した「阪神淡路大震災」および平成23年3月に発生した「東日本大震災」の教訓を踏まえ、小曾木地区住民および自治会、学校等が一体になって防災訓練を実施することによって、小曾木地区の災害発生時の対応能力の向上と、地域住民等の防災意識を高めることを目的に訓練を実施しました。



テントの設置



消防署による訓練

地域・小学校・中学校連携の流れ

第七小学校	地域(第六中学校を含む)
<ul style="list-style-type: none">引き渡し一斉メール送信保護者等学校集合	<ul style="list-style-type: none">小曾木市民センターに本部設置炊き出し訓練開始女性防火防災の会+第六中学校生徒会場内テント設営自治会長役員+第六中学校生徒
<ul style="list-style-type: none">避難訓練引き渡し訓練	<ul style="list-style-type: none">避難訓練および引き渡し訓練見学
	<ul style="list-style-type: none">小曾木地区住民避難訓練避難行動要支援者訓練
避難所開設・運営訓練 第七小学校・第六中学校・自治会役員で対応 仮設トイレ設置訓練・物資輸送訓練	
消防署・消防団による防災指導および訓練	

※雨天にもかかわらず地域住民532名の参加で、小中連携の取り組みと重なり、成果のあった防災訓練になりました。

第 6 支 会

第 3 4 回 黒沢川清掃活動

と き 平成 2 7 年 8 月 2 日 (日)

と ころ 黒沢川と支流等

テーマ ~綺麗にしてそれを守る

それが俺たちの使命~

自治会第6支会と青少年対策小曾木地区委員会（青少対）との共催で、黒沢川の清掃を行いました。

今回で34回となる歴史ある行事で、昭和58年度から始まった活動です。今年度は「綺麗にしてそれを守る それが俺たちの使命」のテーマにもとづき、小曾木地区全域で実施しました。

また、この行事は、小、中学生が共に活動することにより、青少年が地域の一員として自覚と自立を育成することを目的の一つとしています。



開会式



川の清掃

【清掃区域】

- ・黒沢川および支流の小布市川周辺の清掃
- ・小曾木地区を13の地区に分け、開会式を行い、ゴミは指定の場所に集積

【参加者】

- ・自治会員 770名
- ・青少対 151名 ※小中学生の参加率88.8%
- 合計 921名の参加者となりました。

【清掃を終えて】

- ・清掃後「川がきれいになって良かった」、「地域でこの活動を今後とも続けたい」との感想が多く聞かれ、テーマに基づいた成果がみられた。ゴミの量は昨年より減っていました。

地域の応援とボランティア・歴史

「青梅高水山トレイルラン」山岳マラソン大会・30km・15km

第7支会 支会長 浅見 定由

スタート地点

青梅トライアスロン協会・成木8丁目・成木7丁目主催の青梅高水山トレイルラン(山岳マラソン)が毎年4月初旬に1500名を超える参加者が集まり開催されます。

風の子運動広場をスタートし青梅丘陵ハイキングコースを走り成木7丁目高水山常福院を折り返し成木8丁目白岩地区を走り、戻る30kmのレースと成木8丁目栗平地区を通る15kmのレースです。

第7支会の中でも成木7丁目、成木8丁目は山里の地域ですが、山里ならではの、この大会を応援する各地域の活動及び成木8丁目栗平地区の歴史を少し紹介させていただきます。



30kmの部では、成木7丁目自治会員により、参加者が力を発揮し怪我をしないよう前日にコースの整備を行い当日は応援をしながらコース誘導を行います。

折り返し地点7丁目高水山常福院では、住職(清水さん)の、ご好意で高水山常福院のお守り「獅子鈴」を渡しています、参加者たちの間では自然と本堂に一礼し、お守りをもらって復路に向かうという暗黙のルールが出来あがりました。

高水山常福院のお守り「獅子鈴」です



常福院本堂に一礼「安全に」



高水山常福院から激坂を下ると成木8丁目自治会(白岩地区)自治会館前で自治会員によるエイドステーション(水分や食べ物を補給できる施設)を設けて応援しています。顔見知りの参加者の方も多くなり「ありがとう」「久しぶり、いつもありがとう」と声をかけられ、嬉しく思います。



成木8丁目白岩地区 エイドステーション



15kmの部は、スタートから7km地点の成木8丁目栗平地区でコースの地主、萩原さんがエイドを設け、夏ミカンを用意しています。

山里の小さな地域で多くの参加者と触れ合い交流を深め来年もこの地で会える事を楽しみに応援をしています。

栗平地区エイドステーション

この栗平地区は、長條の戦い以降、織田信長の「武田征伐」により、天正10年(1582)3月11日、天日山の戦いに敗れ武田勝頼が自害し名門甲斐武田氏が滅亡し、その武田氏末裔が、この青梅の栗平地区に流れつき安住の地として定住したとつたえられています。

今は、古くなり建て替えましたが、以前には山の斜面に積み重ねられた石垣の上に三百年前に建てられたという重厚な家屋の鬼瓦には、武田家の裏紋である花菱が用いられていました。



これからも、多くの参加者が安全に楽しく走れるように地域参加をし、参加者と地域との触れ合いを大事にしたいと思います。

年間を通しての自治会交流活動

第八支会 東青梅 1丁目自治会

自治会長 斉藤博之

世帯数 203世帯

自治会の取り組み； 第八支会の活動及び自治会内の活動を、年間を通して行っています。

また、当自治会が発足する前、地域の一部が勝沼町に所属していたことから、現在でも一部の事業について勝沼町と一緒に活動を行ない、自治会内外の親睦を深めています。

【第八支会活動】

8月防災訓練

当自治会からは毎年10名以上のメンバーが参加。消防署、消防団と連携し、初期消火、安否確認、応急訓練、避難所設営、炊き出しなどを、体験できる実践的な訓練です。

10月市民運動会

支会最大行事で、第44回大会となります。第1回は優勝！と輝かしい実績でしたが、一時期は参加できない苦しい時代もありました。本年は競技・応援に昨年の参加人数63名、順位14チーム中8位を上回ることを目標に取り組み中です。

【自治会内活動】

7月納涼盆踊り大会

当自治会最大のイベントです。7月上旬に他町の先陣を切り、開催しました。第八支会各町に加え第一支会勝沼町の皆さんも大勢参加しました。自前の檣を中心とした盆踊りは、もちろん準備・片付けを通して自治会内の連携・親睦を深めています。他町の皆さんとの交流も楽しみの一つです。

11月レクリエーション

毎年、バス旅行とバーベキュー大会を交互に実施しています。本年はバス旅行の予定です。昨年は、花木園にてバーベキュー大会を行い31名の参加人員でした。

1月新年会

自治会発足時から続いている行事で、今年は51名が参加。福袋の配布や余興として、カラオケやフラダンスが披露されました。

災害時要援護者支援の取り組み

他の自治会を参考にして、要援護者マップの作製、自治会三役と顔合わせを行い、民生児童委員さんと情報を交換しています。毎年5月の隣組長会議にて、隣組長さんに協力を依頼しています。

【勝沼町との交流活動】

5月青梅大祭

勝沼1丁目、2丁目、3丁目と共に【勝沼町】として、東青梅1丁目も参加しております。祭典副委員長、各係の主任、副主任の他に4年に1度大役の「拍子木」を担当しています。本年は、総勢80名の協力をいただきました。

9月勝沼神社例大祭カラオケ大会

奉納カラオケ大会に、町内から飛び入りで副自治会長の村多克規さん、お店から雅シスターズの4名と東青梅1丁目代表で濱野剛さんが熱唱し、大いに盛り上がりました。

【自治会としての想い】

当自治会は、3つのマンションで142世帯、戸建てが61世帯で、約7割がマンション世帯です。

20年前には考えられなかった、世帯構成で、戸建て世帯が著しく減少しました。日頃より、自治会内で挨拶や会話が交わされていることが、災害時の共助・犯罪の抑止につながると考えます。そのためにも、自治会活動に大勢の皆さんが、参加して交流を深めることが重要です。今後、いかに自治会活動の門戸を広くするかを、考えて行かなければなりません。

堂々の入場行進



平成26年聖火ランナー 久下裕さん



町内ディサービスの方々の踊りです



自治会席のひとコマ



バーベキューの合間のパン食い競争



平成27年新年会



平成26年拍子木 田村和明さん



5月2日 町内曳き



第8支会 東青梅2の1自治会

～ 納涼盆踊り大会と稲荷神社祭礼 ～

自治会長 武藤 廣司

当自治会の活動には、年間に2回のお祭りがありますので紹介します。

一つ目は、夏祭りである「納涼盆踊り大会」です。

例年、7月の第三土曜日に開催され、朝8時から地域の若手を中心に会場の設営に取り組みます。櫓の建て込みは、先輩指導者の段取りを若手が継承しながら手際良く力を合わせておこないます。テントも4組建て、テーブルや椅子を並べ、花場、受付、入り口アーチを設営すると昼前に準備が完成します。その後、準備の慰労としてお茶とおにぎりを食べる頃には、地域の交流が始まります。

午後6時に放送が開始し、曲の音頭とともに地域の方々が集まり出して、納涼盆踊り大会の幕開けとなります。模擬店は子供会が中心に担当し、長寿会や女性陣が先頭に立って踊りを披露します。途中には師岡神社のお囃子連が舞台上がり、お祝いのお囃子を演じて下さいます。午後9時半頃の終了まで、地域の方々がたくさん集まり、夕涼みと交流を深めながら盛大に納涼会が開催されます。



次に、二つ目のお祭りは、冬におこなわれる「稲荷神社祭礼」です。

例年、2月の第一日曜日に開催され「初午祭」とも呼んでいます。この大塚正一位稲荷神社は、文化二年（西暦1805年）に地域の五穀豊穰・萬福を願い、伏見稲荷大社に御分霊を勧請して安鎮されたもので、200年以上の歴史があります。お祭りの当日は、午前10時に神主さんの祭祀で始まります。併せて古くなった縁起物やダルマ、お札などを「どんど焼き」として炊きます。



子供会では、事前に父親が山へ篠竹を取りに行き、母親が奉納旗を作り、当日に神輿太鼓を打ちながら町内を巡礼して、奉納旗を各家庭に配ります。昼になると、食事とお酒が振舞われて「稲荷講」となり、地域の親睦を図りながら神社のお祭りを祝います。ここでは、奉納品が競売されて神社の維持管理費を町内の方々に賄っています。このお祭りを通じて地域の伝統文化を継承するとともに、住民同士の交流の場づくりに取り組んでいます。

当自治会は、世帯数が少ない上に少子高齢化の影響もあり、年々と参加者が少なくなっていますが、地域の安全・安心を目指して民生委員および諸団体と一緒に防災・防犯・健康に繋がる行事、並びに組織を整え、今後とも地域のコミュニケーションを大切に考えるとともに、より一層の親睦を図れる自治会活動に取り組んでいきます。

体験・検証！避難ルートと非常食

第九支会長 櫻井義久

世帯数 1,719世帯

災害時の落ち着いた 行動と正しい心構え

新町末広町地区自主防災対策委員会は、大地震等の災害が発生したとき、被害を最小限に抑える落ち着いた行動と正しい心構えを身につけることを目的に、例年、都立誠明学園のグラウンドを会場に、自主防災訓練を実施してきた。

しかし、27年度は、青梅市総合防災訓練が、新町小学校で実施されるため、会場までの避難ルートが変更となることから、新町小学校のグラウンドを会場に、「新町末広町地区自主防災訓練」を、5月30日（土）に実施することとした。

避難ルートの検証 ・危険個所の点検

防災訓練の5月30日、参加者（避難者）は、自宅から、各自治会の集合場所（一時集合場所）に集合。

各自治会の防災責任者は、集合場所の安全確認と参加者（避難者）の点呼を行い、その後、責任者と交通安全協会指導員の先導により、避難所に向かう。

歩きながら避難ルートにおける危険個所の点検を実施。



参加者が、訓練会場（新町小学校）の避難所に到着後、避難者カードを渡し、机とイスを利用して、カードに記入し、責任者が、集約して本部に提出（受付）。

炊き出し訓練 ・非常食の試食体験

各自治会が、会場に集合したのち、全体で、訓練実施内容を確認した。

そして、ガスコンロ6台でお湯を沸かし、非常食（五目アルファ米）の炊き出しを実施し、参加者が試食した。



アンケート調査結果 良好＋普通＝97%

参加者は、9自治会で、273人。試食終了後にアンケート用紙を配布し、参加者が感想を記入。訓練の講評の後、終了した。

アンケート集約では、97パーセントの方が訓練を普通以上と評価した結果となり、改めて訓練継続の必要を認識した。

<27年度底力助成、机、イス等購入>



いちばん賑やかな納涼盆踊り大会

第九支会長 櫻井義久

世帯数 1,719世帯

会員の交流と親睦 ・地域連帯感の向上

第九支会(新町末広町地区自治会連合会)では、自治会会員の交流と親睦による地域連帯感の醸成のほか、未加入世帯の盆踊り大会への参加により、会員の増加を図ることを目的に「第九支会納涼盆踊り大会」を実施している。また、東日本大震災以降、電力需給が改善されていない中で、24年度に都の助成により、白熱電球と蛍光灯から、すべてLED電灯に転換し、省エネの効果と普及PRも行っている。
〈24年度底力助成、LED電灯等購入〉

会場を彩る220個の 提灯(LED電灯)

盆踊り大会に向けては、実行委員会の開催3回、練習4回、ゆかた着付け教室2回を実施するが、毎年、当日の天候が心配。

当日は、櫓のほか、本部関係テント11張り、自治会が模擬店で9張を設置する。

そして、LED電灯を包む色鮮やかな提灯220個(26年度、147人・件の協賛金で購入)のもとで、保育園児のかわいらしい盆踊りから、賑やかに開始した。

会場は、約1,500人の参加者で身動きできない状況です。



7月19日(日)、午後5時30分、「第九支会納涼盆踊り大会」の第1部を開始。

新町保育園が、櫓の舞台の上で、アンパンマン音頭などの3曲、次は、東保育園、西保育園、少年野球チームなどが、元気よく踊りました。

大人気の13の模擬店

会場の周囲は、9つの自治会のほか、青少対、環境美化、子ども会、フットボールクラブにより、焼き鳥や焼きそば、ビール、かき氷、ボールすくいなど、工夫を凝らした13の模擬店が、賑わいました。



夕闇が迫る午後6時30分からは、開会式で、支会長の後、来賓の祝辞。そして、6時50分からは、第2部の開始です。

支会役員全員が櫓で踊る

盆踊り第2部は、自治会ごとに、自治会長を先頭に櫓の舞台の上で各2曲を踊ります。途中、青梅学園や長命会、花照舞会、寛三会の団体を挟み、最後は、支会役員全員で櫓に上がり、炭坑節と新町なじみの「パラダイス東京」を踊り、盛況のうちに締めくくりました。





自主防災訓練

自治会長 並木 隆 世帯数 296 世帯

大地震発生時、家族や隣人が倒壊建物内に取り残されたら、自分は何ができるのだろうか。我が自治会では、近隣の方々や通行人による救助・救出からけが人の手当てを行い、毛布を使用した搬送訓練までの流れを行いました。

実施日：平成27年8月15日（土） 実施場所：鈴法寺公園内

参加人数：60名

訓練内容

大地震時、いち早く近隣住民により倒壊建物などから救助救出を行い、怪我の手当てを実施後身近にある毛布などを使用し、救助所まで搬送する一連の訓練を実施した。

● 避難・参集訓練

大地震が発生したとの想定で、自身家族の安全を確認、ご近所への声掛けを行い一時避難場所の新町1丁目自治会館に参集する。

● 救助・救出訓練

建物や自販機に挟まれた人を身近にある救助器具（鉄パイプ、車のジャッキ等）を使用して近隣住民による救助救出の訓練を実施。



● 応急手当訓練

救助したけが人を三角巾を使用して応急手当てを行うやり方を全員が実施した。

● 毛布を使用した搬送訓練

簡易担架は各自治会には配置されていないため、身近にある毛布を使用して自力歩行不能者を搬送する訓練を実施した。

成 果

- 家庭内にある資機材を使用した救助・救出訓練を実践したことにより、住民に大きな自信となった。
- 三角巾を使用した創傷処置の仕方を全員が行い、早期に応急手当てを行う重要性が理解できた。
- 災害時は公助に頼るのではなく、自助共助により自主救護を行い近隣住民で助け合わねばならないことを参加者全員が認識することができた。
- 青梅消防署員から「阪神淡路大震災」「東日本大震災」「御嶽山噴火災害」に救助隊員として出場した隊員の講和をいただき、自治会員にとって大変ためになったとの声が聴かれた。

まとめ

新町1丁目自治会では平成27年4月「新町1丁目自主防災委員会」を立ち上げ、規約制定、防災だよりの発行、防災住民カードの整備等を行ってきましたが、今回我が自治会では初の自主防災訓練を実施いたしました。

今後も、「我が町は我が自治会で守る」を合言葉に、防災訓練の他様々な取り組みを行い、自治会員の皆様が協力体制を築けるよう積極的な施策を行っていきます。

地域に根ざしたコミュニティ創り

自治会長 久下松夫

世帯数 530世帯

新町七・八・九丁目自治会では住み良い街づくりと地域のネットワーク作りとして様々な活動を行っております。(参考：平成26年度事例集で報告)

昨年、新しい自治会サークルの”歌声“が出来ました。これは昭和に青春を過ごされた方なら良くご存知の歌声喫茶です。皆で知っている歌を大きな声を張り上げて歌うのですが、カラオケのように一人で歌うのではなく、かと言って合唱をすると言うことでもありません。気楽に、好きな歌を思い切り歌えることが魅力なのです。

今回サークルとして上手く軌道に乗れたのは幾つかの要因がありますが、やはりアコーディオンの新井幸子氏に師事していただいた事が良かったと思います。毎回10曲の選曲と、その場のリクエストに答えての10曲を弾いていただいておりますが、伴奏の合間に入るお話しも興味深く、歌曲の出来たいきさつなどを知ると感激も新たになります。

二番目にはサークルを支えるスタッフがとても心得ていて、それぞれの持ち場をフォローしていること。歌うこと、人と笑顔で接すること、地道な会場作りと片付け等々、黙々とそして多くの方に喜んで頂くことを楽しんでいます。

三番目には新しい機材。プロジェクターで会館の白壁いっぱいに歌詞が映し出され、後ろの方からも良く見え、選曲もすばやく一気呵成に歌い上げる感があります。

四番目には自治会館。先人たちのご苦勞によって立派な会館を作っていただき、この様な楽しい集まりが持てることは誠に感謝に耐えません。

五番目には歌うことの好きな、元気な仲間。この一年間で述べ500人の人が集まりました。そして毎回40人以上の人たちが参加して下さい、元気に成って又次回を楽しみにしていただいております。



自治会館でのうたごえサークル“えんがわ”活動風景

先回、ある方がしみじみと“この会を楽しみにしているのよ”と書いて下さり、立ち上げて良かったと思っています。

どなたが参加してくださっても良い、開かれたサークルですので、来て、見て、歌って下さい。そして笑顔を地域に持って帰ってください。お友達に声をかけて一緒に楽しいひと時を過ごしませんか！！

これらのサークル活動は人と人との和・地域の輪の醸成につながっており、サークル活動を更に盛んにすることにより自治会員加入者を増やし、また退会者を減らすことになり地域の輪が広がり災害発生時等にも大きな力になると考えています。

let's family golf!

河辺町八丁目自治会 会長 歌田 明美



河辺町八丁目自治会では会員の親睦と健康増進を目的として、毎年5月に自治会主催のファミリーゴルフ大会を開催しています。このファミリーゴルフは、子どもから高齢者まで皆が楽しめるスポーツです。家族での参加も大歓迎です。

ゴルフのクラブやボールなど用具一式は自治会が準備しますので、手ぶらで参加できます。また、簡単なルールだから、初めての参加でも楽しめるゲームです。

平成27年度ファミリーゴルフ大会

期日： 平成27年 5月17日（日）

時間： 午前9時30分集合、午前10時よりプレー開始

会場： 若草小学校校庭

※ファミリーゴルフ大会が終わりましたら、若草会館前駐車場に移動して“そうめん流し大会”を行いました！！

ファミリーゴルフでひと汗かいたあとは、そうめん流しが待ってます。青々とした孟宗竹を真二つに割って節を削り、長く繋げた中を勢いよくそうめんが流れます。少しでもよそ見していたら、そうめんはあっという間に目の前を流れていってしまいます。アメリカンチェリーやミニトマトも流れたりしました。

初夏の風物詩・そうめん流しを大いに楽しみました。



河辺ダイヤモンドマンション自治会 レクレーション大会の開催

自治会書記 佐々木 敬

当自治会は河辺町 1 丁目にあり、青梅市第 10 支会に所属する 113 世帯で構成する自治会です。毎月 1 回行う自治会の資源回収をはじめ、各種行事への積極的な参加を通じて、会員相互の理解を深めるよう常に心掛けており、大人も子供も外で会ったら笑顔で挨拶できるような明るい自治会づくりを目指しています。9 月 23 日（祭）恒例の隣接自治会との共催によるレクレーション大会(バーベキュー大会)を河辺南自治会館で行いました。本職顔負けの調理人（自治会員）の作るチーズの燻製などはお客様にも大好評でした。

① この段ボール箱で

肉、チーズ、ゆで卵などを煙で燻すと……
(調理人の顔を出せないのが残念)



② 美味しい燻製の出来上がり

③ 燻製を切り分け

きれいに盛り付け



子供たちと皆で
美味しい料理やビンゴゲームで
楽しいひと時をすごしました。

※ 27 年度自治会役員会では、重点項目として災害時における防災対策について話し合っています。

第 11 支会地区 ふるさとまつり

第 11 支会 支会長 関口 陽一

今井市民センター文化展、模擬店等の開催

第 11 支会では、今井市民センター文化展と合わせ、毎年 11 月初旬の日曜日に「第 11 支会地区ふるさとまつり」を開催しています。

ふるさとまつりは、今井市民センターが開館した平成 12 年から支会行事の一大イベントとして開催しており、藤橋・今井地区の連携と地域住民のふれあい・親睦を目的に行っています。

午前 10 時の開会式のあと、保育園児の鼓笛演奏、模擬店、バザー、青少年対策委員会・子供会によるゲーム等により、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加をいただいています。

毎年、地域住民を中心に 2000 人前後の参加をいただき、楽しい一日を過ごしています。



動物ふれあいまつりの開催



動物ふれあいまつりは、第 11 支会地区ふるさとまつり同日の午後 2 時から、「今井ふれあい公園」で行っています。

青少年対策委員会と子供会が主催し、やぎ、うさぎ、へび、かめなどの小動物を中心とする移動動物園です。

普段は小動物とふれあう機会が少ない子どもたちを中心に、会場は子どもたちの大きな歓声があふれ、幼児や小学生を中心に小動物とふれあう貴重な体験の場として、多くの人から好評をいただいています。

生活安全・環境パトロール

自治会長 齋藤順逸 世帯数 184 世帯

藤橋第2自治会の防犯パトロール編成は理事7名、隣組長23名、合計30名で、4グループに分け年3回のパトロールを実施しています。

午後6時から、服装自由ですが自治会のチョッキ、腕章着用です。



コースは

- ① 雲神社-福伝寺-久保信号-矢端堀-セイムス裏-2丁目運動広場
- ② 細道公園-青果市場裏-送電線通り-給食センター-藤橋小-ワークマン裏
- ③ JA西東京-送電線通り-給食センター-藤橋小-ワークマン裏-青果市場

歴代会長、三役の皆さんの配慮と思われませんが、5、6年毎にパトロール順番が廻ってきます。ですから第二自治会員、**全員参加**で地域の安全安心を見守っていきましょうとの表れと思っております。夕暮れ時近所の皆さんと世間話をしながら、30分から40分運動を兼ねながら、街灯の球切れ、放置自転車不法投棄物、不審者等の報告書が会長宅に届き確認後、市に提出しております。

昼は地域の八雲長寿会の皆様が、なんと年間32回（昨年度総会資料より）実施しており、昼夜問わず地域の安全・安心に皆さまのご協力頂き心より感謝いたしております。



第11支会 今井原今井自治会
2年毎の防災訓練の実施について

自治会長 指田英夫 世帯数 104 世帯

「原今井自治会防災の日」の制定

当自治会では、毎年4月15日を「原今井防災の日」と定め、独自に隔年の4月に防災訓練を行っています。これは当地に過去に起きた大火の史実を風化させぬよう諸先輩達が40年を経た昭和53年に制定したものです。昭和13年4月15日に発生した霞村原今井大火(33戸数中12世帯49棟が火災に呑まれる)に際して、多くの人々のご支援により復興がなされたこと、この多くの善意を感謝し忘れることなく、また自らも防災意識の堅持を目的として制定したもので、現在まで受け継がれています。

現在の活動状況について

隔年ながら現在も青梅消防署、地区消防団の協力のもと消防署のハシゴ車出動による体験乗車、起震車で地震体験、地区消防団による消火訓練や救護訓練、警察署の戸締りや護身の受講等、一自治会単位でのきめ細やかな防火防災の訓練が多く参加者により行われています。当防災訓練では全ての人で防災体験の共有が出来、新たな住民の方々との交流も図られ互いに地域安全の意識が醸成されていると思います。

懇親会も合わせて

青梅消防署、地区消防団の指導による実施訓練が行われた後は、地域皆が集う場となります。訓練実施後には炊き出し訓練として、参加者皆で協力し、焼きそば、豚汁等を作りその後に懇親会を行います。

東日本大震災以降、改めて自然災害の恐ろしさが痛感され、現在でも首都直下型地震や立川断層帯地震の発生が危惧されています。このような大災害に対しては、防災への日頃からの心構え、近隣同士のお付き合い、助け合いが過去の経験上で何より大切であることが実証されています。これら行事を通じ更に親睦が深まり、有事の際にはお互いに協力し合える頼もしい地域協力体制作りが進展していることを確信しています。



青梅市自治会・支会活動事例集
(平成27年度版)

平成27年12月発行

編集・発行：青梅市・青梅市自治会連合会

問合せ：青梅市市民部市民活動推進課

〒198-0102 青梅市東青梅 1-11-1

TEL 0428-22-1111

FAX 0428-21-0542

青梅市 HP <http://www.city.ome.tokyo.jp>

メールアドレス：div1003@city.ome.tokyo.jp

青梅市自治会連合会 HP <http://www.ome-rengou.jp/>

